

アウシュビッツの「死の天使」、ヨーゼフ・メンゲレの半生を描き、ルノド賞を受賞したフランス人作家オリヴィエ・ゲーズ氏の講演会です。

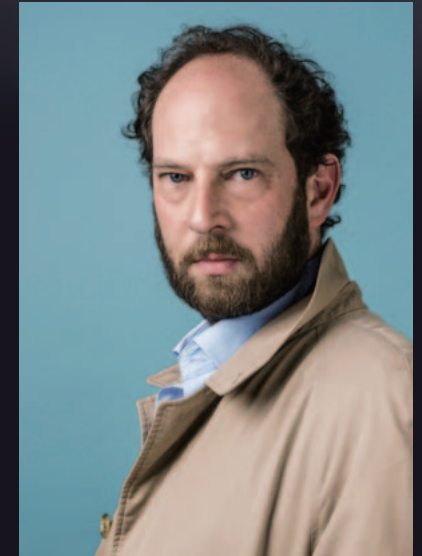
アウシュビッツ収容所の主任医官であったヨーゼフ・メンゲレは、第二次大戦中にユダヤ人特に双子の子供への人体実験を行ったことで知られますが、戦後はアルゼンチンに逃亡。イスラエルによるアイヒマン逮捕以降も、南米各地を転々としながら、偽名で生活を続け、1979年心臓発作により海水浴中にブラジルで死亡しました。

小説『ヨーゼフ・メンゲレの逃亡』は、ヨーロッパと南米での長期の調査にもとづき、この「死の天使」メンゲレの生涯を描きだし、フランスで権威あるルノド賞を受賞しました。本講演会では著者本人から本作執筆にまつわる話を伺うほか、日本のアウシュビッツと言われている731部隊に詳しい西里扶冑子氏との公開対談を行います。講演後はサイン会が予定されています。



オリヴィエ・ゲーズ著
高橋 啓訳、東京創元社

『ヨーゼフ・メンゲレの逃亡』
フランス人作家、オリヴィエ・ゲーズ講演会



Profile
オリヴィエ・ゲーズ
Olivier GUEZ
1974年フランス、ストラスブール生まれ
ストラスブール政治学院、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、ブリュージュ・コレージュ・ド・ヨーロッパで学んだ後、ニューヨーク・タイムズ、ル・モンド、フランクフルター・アルゲマイネ、ツァイトウングなどに寄稿するジャーナリストとして活躍。『アイヒマンを追い、ナチスが最も恐れた男』(2015年)共同脚本。執筆に3年を費やした2作目の小説『ヨーゼフ・メンゲレの逃亡』(高橋啓訳、東京創元社、2018年)でルノド賞受賞。

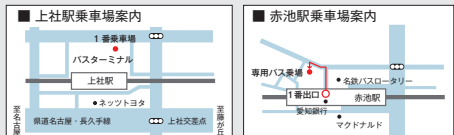
特別ゲスト **西里扶冑子**
ジャーナリスト
元ドイツ国営放送ZDFプロデューサー
日時 2018年 **11月15日(木)**
13:20~14:50
会場 名古屋外国語大学 7号館 701教室
後援 ワールドリベラルアーツセンター
創立30周年記念事業委員会

申込不要
参加無料
どなたでも参加できます
使用言語 フランス語 (日本語通訳あり)
通訳 伊藤達也 名古屋外国語大学フランス語学科

特別ゲスト Profile
西里扶冑子
Fuyuko NISHISATO
ジャーナリスト
元ドイツ国営テレビ ZDF プロデューサー
北海道大学卒業、北海道放送入社、報道部を経て、オーストラリア放送(ABC)、ロンドン滞在後帰国。海外メディアのコーディネーター/リサーチャー、2001年より2016年までドイツ国営放送(ZDF)プロデューサー、著書に『生物戦部隊731』アメリカが免罪した日本軍の戦争犯罪(2002年 草の根出版会)他。



■本学へのアクセスについて■
当日、駐車場はありませんので公共交通機関または上社駅、赤池駅からの専用バス(無料)をご利用ください。
専用バスにご乗車の際は、イベントに参加する旨を運転手にお伝えください。



問合せ先 電話での本学へのお問い合わせ
名古屋外国語大学 0561-74-1111(代)
470-0197愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
本イベントにおける写真撮影や録音はご遠慮いただきますようお願い申し上げます。
会場では腕章を付けたカメラマンが記録用の写真撮影を行っています。本学ウェブサイトやその他の刊行物に、写真が掲載されることがありますのでご了承ください。